資料３

人口ビジョンの検証と
H30推計に基づく時点修正について

令和元年10月18日　総合計画推進委員会

住田町企画財政課

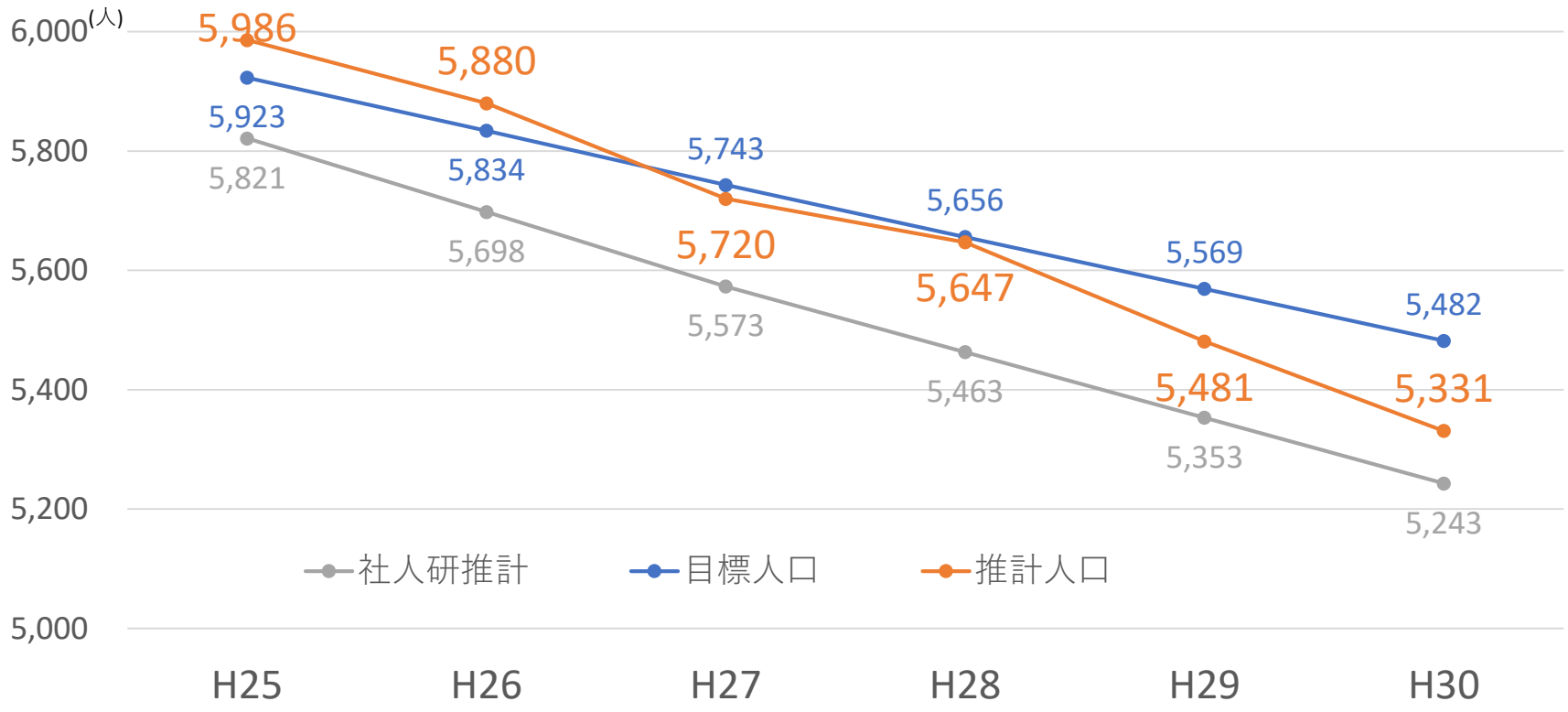
本資料の構成と目的

① 人口ビジョンの検証
② 新社人研推計の分析（平成30年3月公表）
③ 人口ビジョンの再シミュレーション

【目的】
現行の人口ビジョンで掲げる「2040年に人口4,000人」という目標を修正すべきかどうかの判断材料

① 人口ビジョンの検証

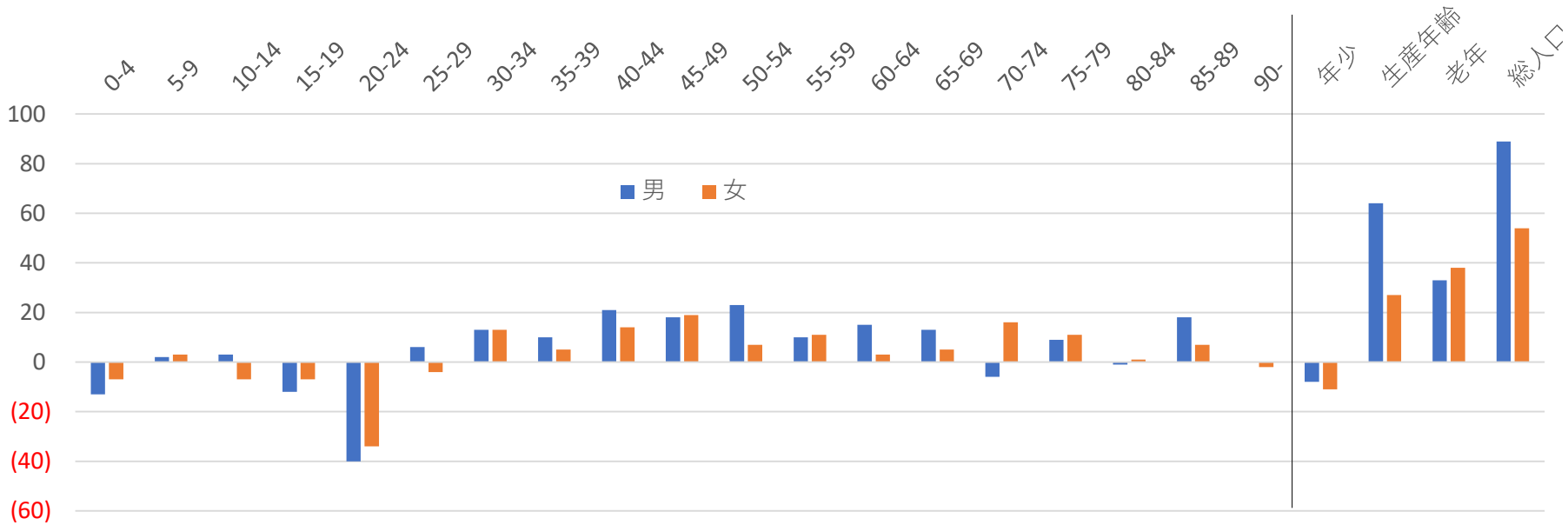
推計人口との比較



本町の推計人口は、社人研推計は上回っているものの、H29からは減少のスピードが加速しており、目標人口を大幅に下回っている。
（推計人口＝岩手県人口移動報告年報）

① 人口ビジョンの検証

H25社人研推計のH27人口とH27国勢調査人口との比較



- 20～24歳は男女とも社人研推計をそれぞれ30人以上下回っている
- 0～4歳も10人前後下回っており、出生数が推計を下回っている
- 女性に限ってみると、20代以下の多くの年齢区分で下回っている
- 一方で、30代以上は上回っており、特に40代は男女とも10人以上上回っている

② 新社人研推計の分析

【社人研推計の方法】

① 各年齢区分の推計

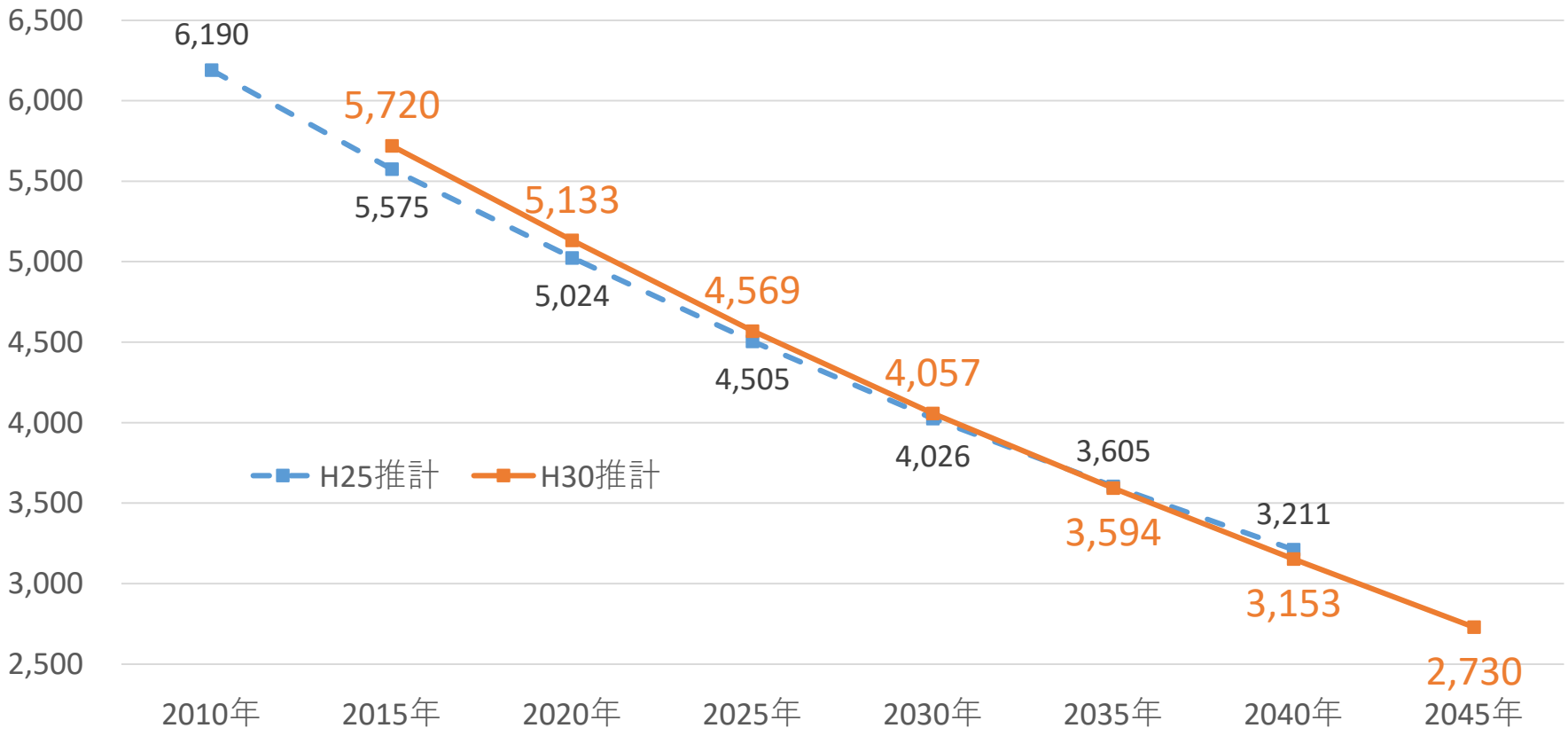
- ✓ 生存率・・・・・5年後に生き残っている率
- ✓ 純移動率・・・5年間の純移動数（転入、転出）の率
  （1以上は転入超過、1未満は転出超過）

② 0-4歳の推計

- ✓ 子ども女性比・・・15-49歳女性の人口に対する0-4歳人口の率
- ✓ 0-4歳性比・・・・・・ 0-4歳女性100人あたりの0-4歳男性人口

② 新社人研推計の分析

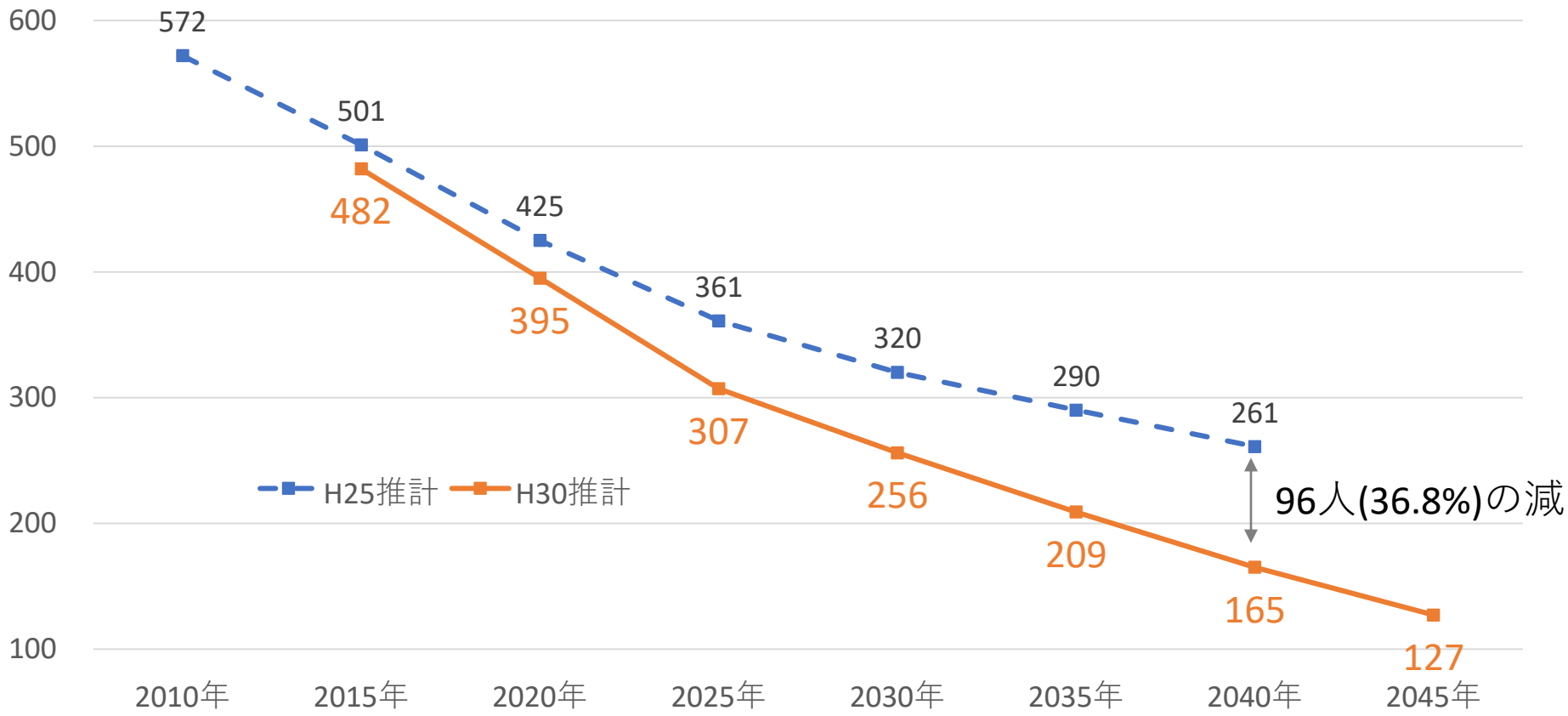
総人口



H30推計は、2030年までH25推計を上回っているが、2035年から下回り、2040年はH25推計の3,211人を58人下回る3,153人となっている。

② 新社人研推計の分析

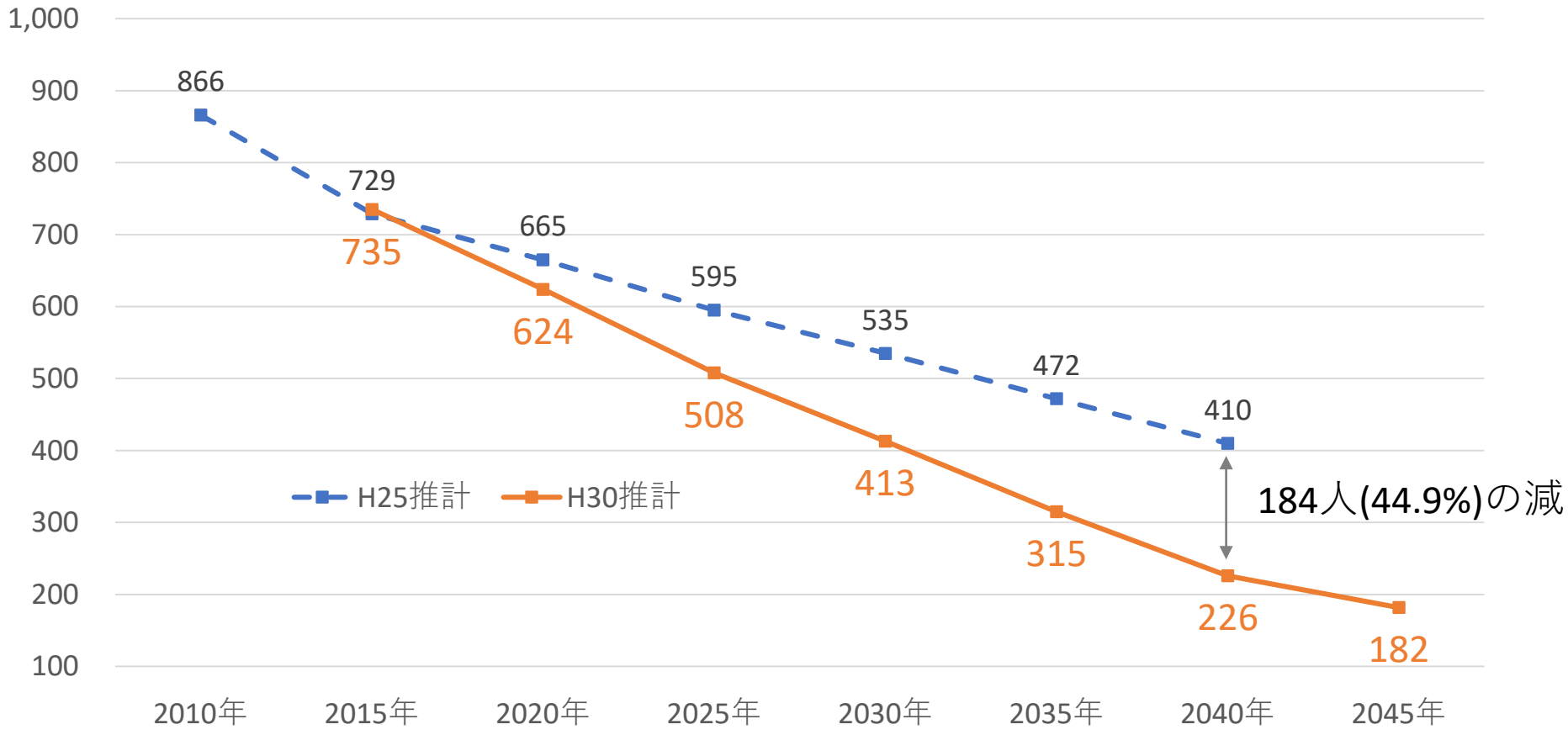
年少人口



年少人口は、2015年の国勢調査の実績からH25推計を下回っており、減少率においてもH25推計を下回っている。

② 新社人研推計の分析

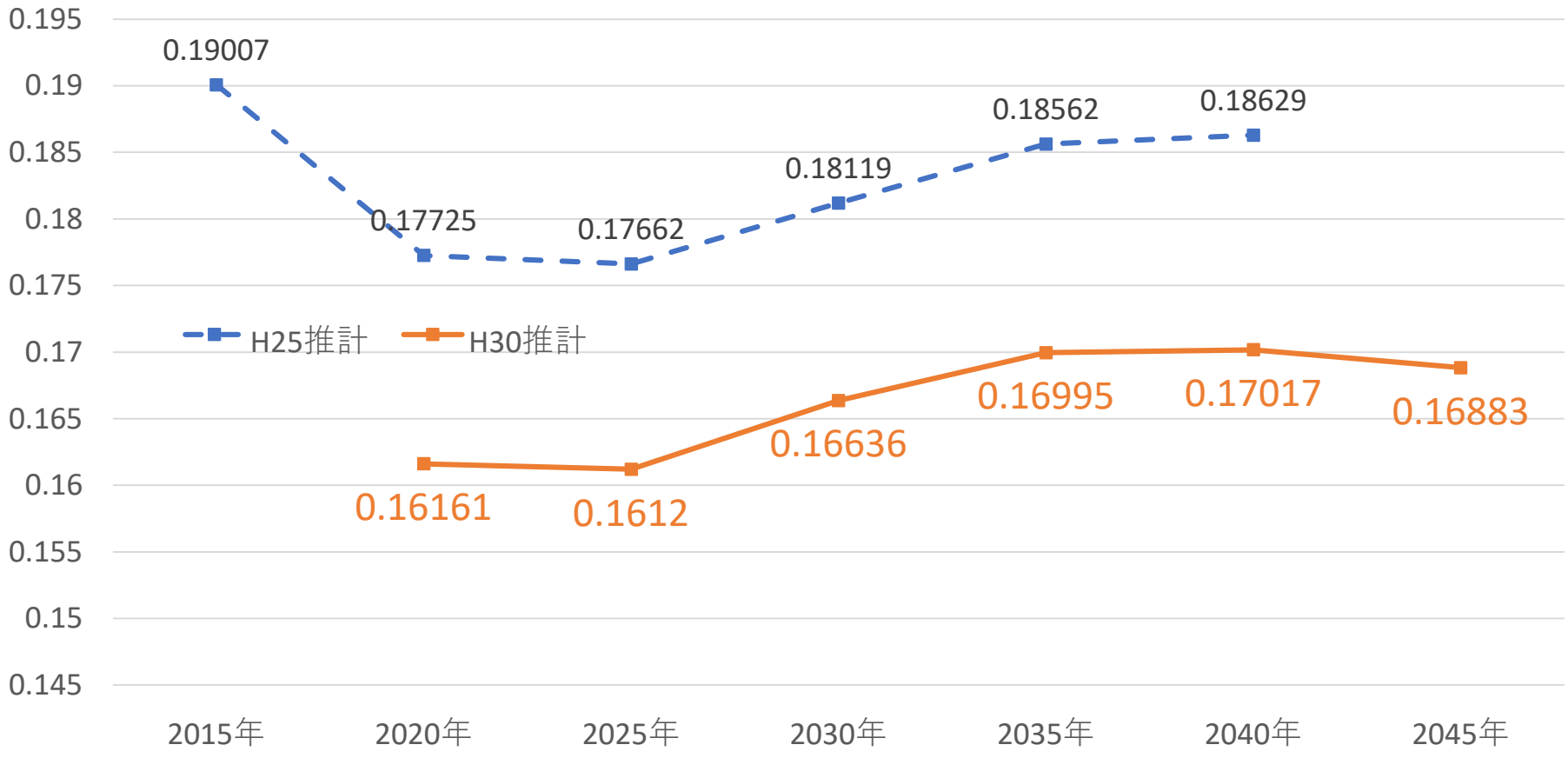
年少人口（15～49歳女性人口）



15～49歳女性人口は、H25推計に比べ減少が加速し、2040年にはH25推計に比べおよそ半減となっている。

② 新社人研推計の分析

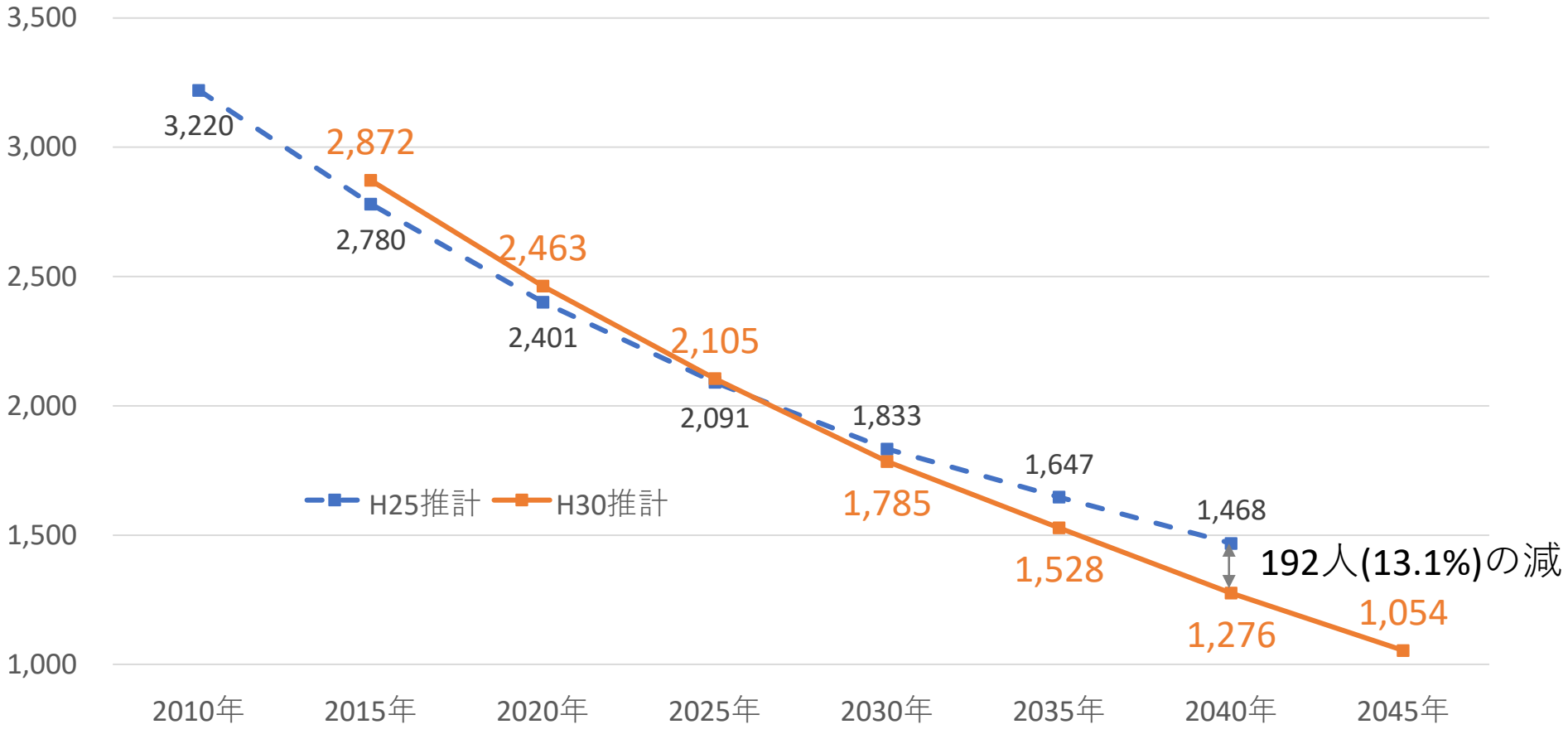
年少人口（子ども女性比）



子ども女性比についても、傾向としては同じだが、すべての年においてH25推計を下回っている（出生率の低下）

② 新社人研推計の分析

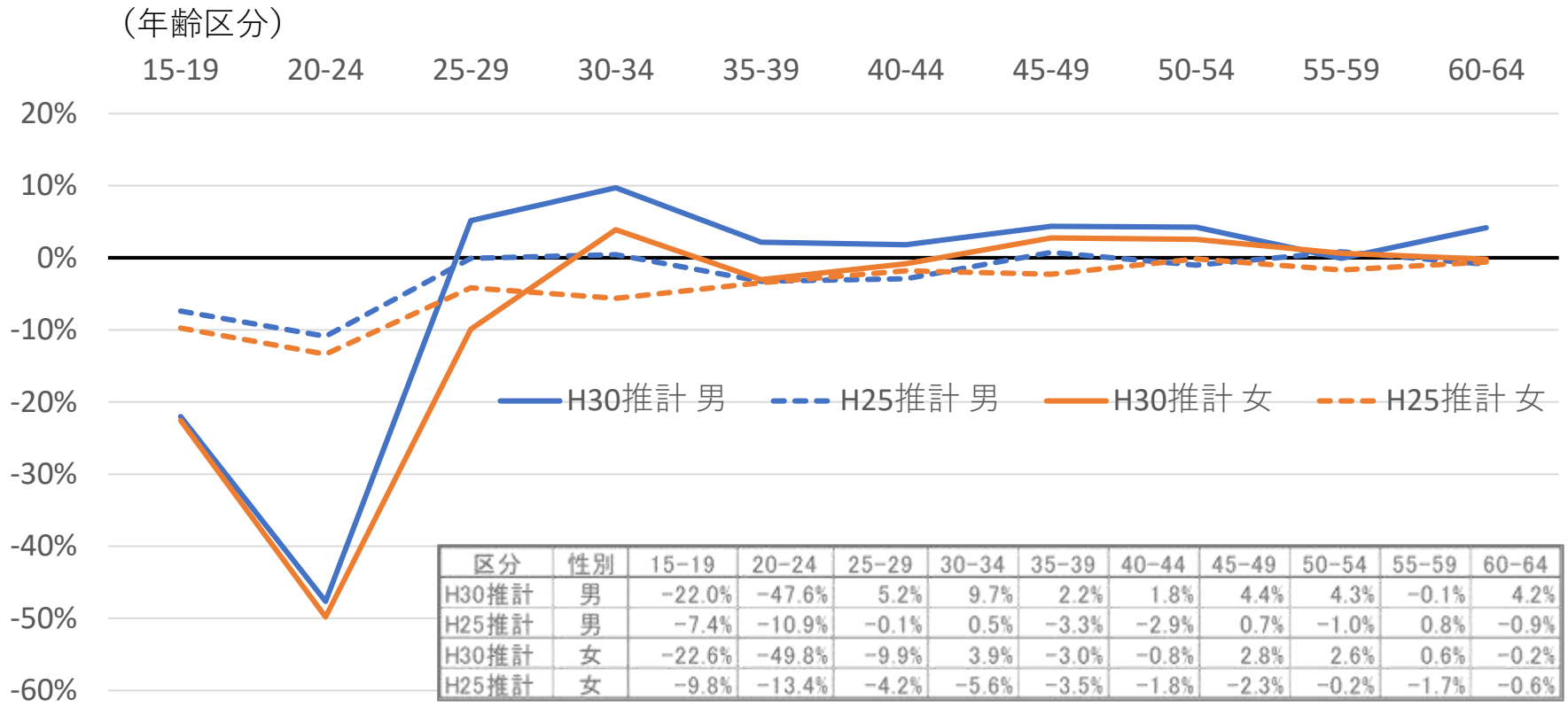
生産年齢人口



生産年齢人口は、2025年まではH25推計を上回っているが、2030年から下回り、減少率が下げ止まっていない。

② 新社人研推計の分析

生産年齢人口（純移動率）

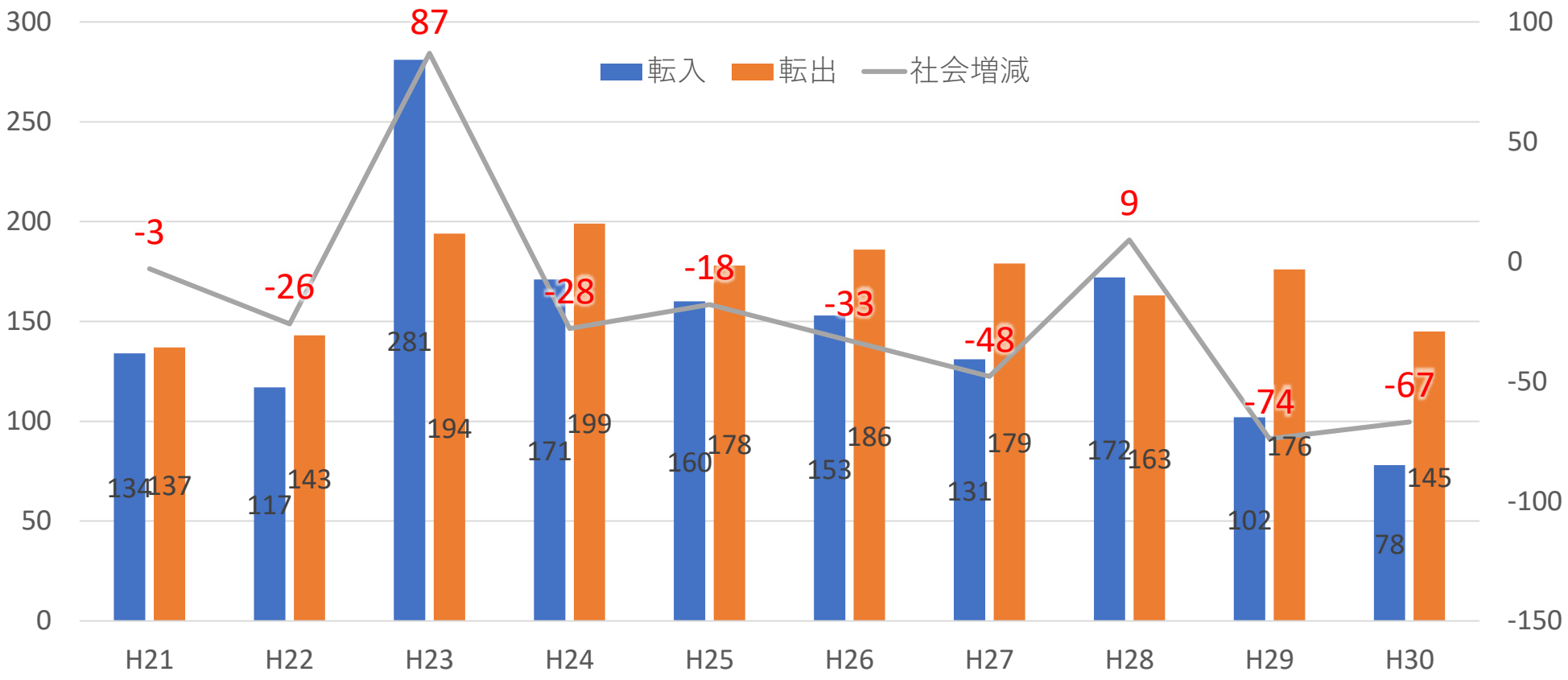


区分	性別	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64
H30推計	男	-22.0%	-47.6%	5.2%	9.7%	2.2%	1.8%	4.4%	4.3%	-0.1%	4.2%
H25推計	男	-7.4%	-10.9%	-0.1%	0.5%	-3.3%	-2.9%	0.7%	-1.0%	0.8%	-0.9%
H30推計	女	-22.6%	-49.8%	-9.9%	3.9%	-3.0%	-0.8%	2.8%	2.6%	0.6%	-0.2%
H25推計	女	-9.8%	-13.4%	-4.2%	-5.6%	-3.5%	-1.8%	-2.3%	-0.2%	-1.7%	-0.6%

20～24歳の純移動率が、男女ともH25推計に比べ、40ポイントほど減少して、大幅な社会減の推計となっている。（15～49歳女性の減少にも影響）
30代以降は、若干ではあるが高くなっている。（特に男性）

② 新社人研推計の分析

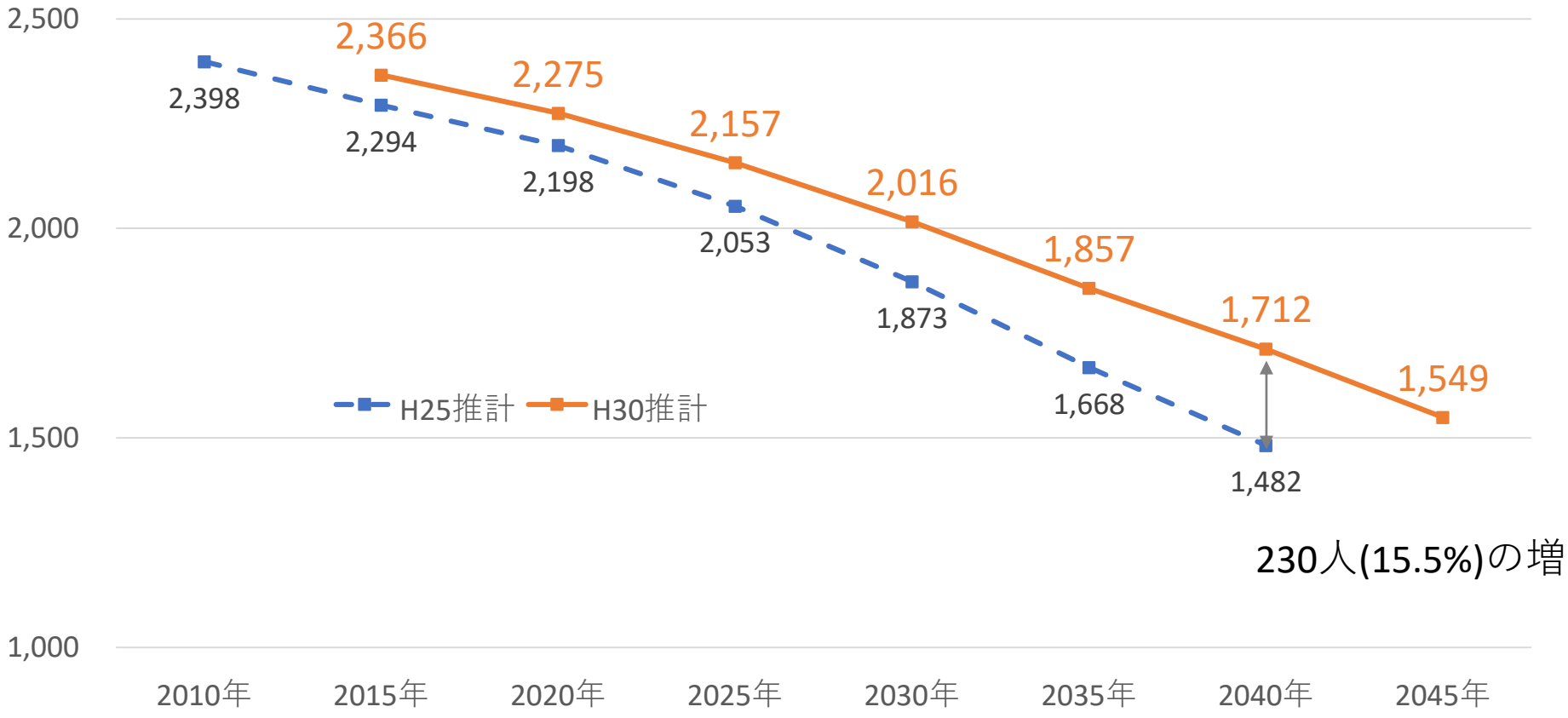
生産年齢人口（社会増減）



転出者数にそれほど変化はないが、近年の転入者数は、震災以前よりも減少しており、社会減が拡大している。

② 新社人研推計の分析

老年人口

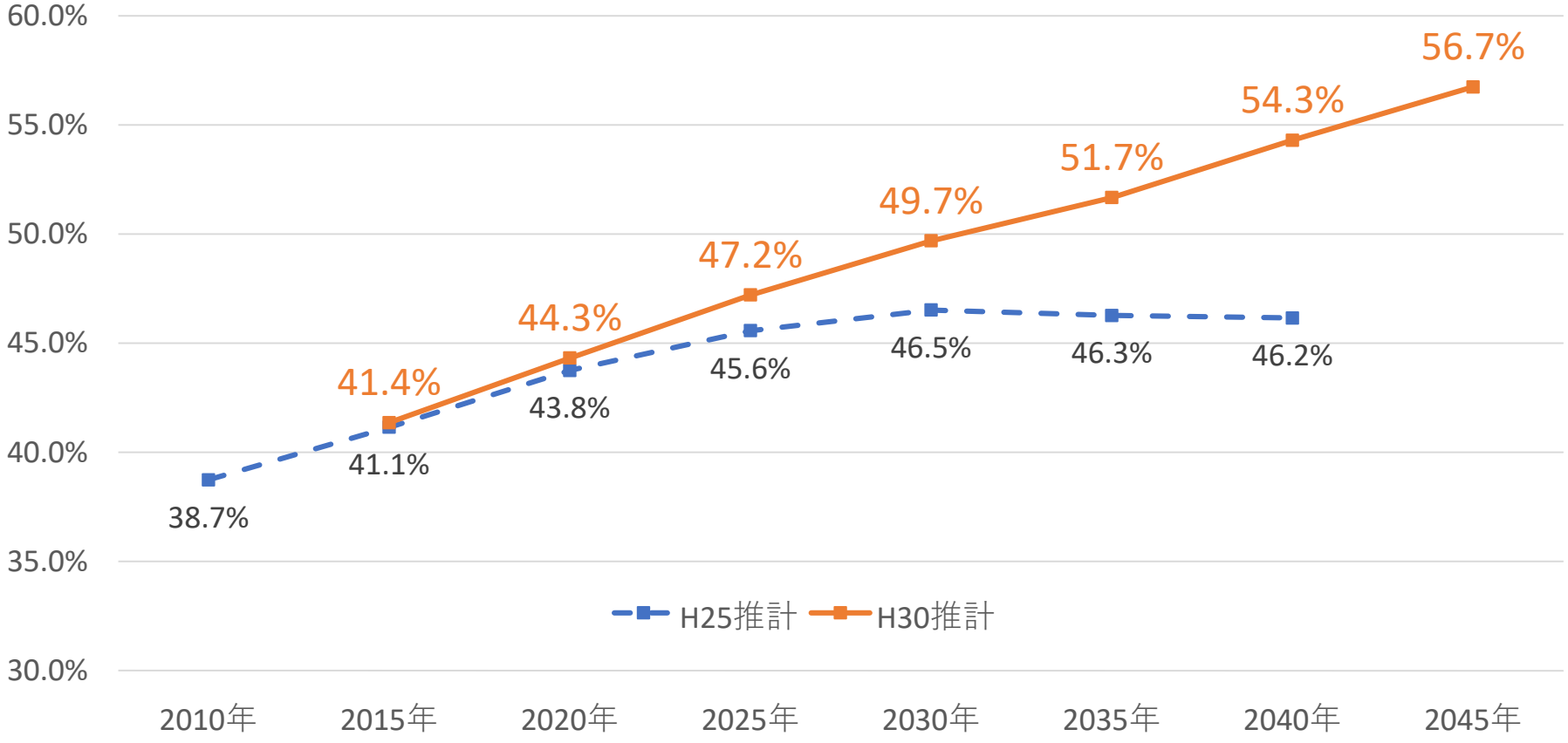


230人(15.5%)の増

老年人口は、H25推計を上回っており、減少率もH25推計に比べ緩やかになっている。

② 新社人研推計の分析

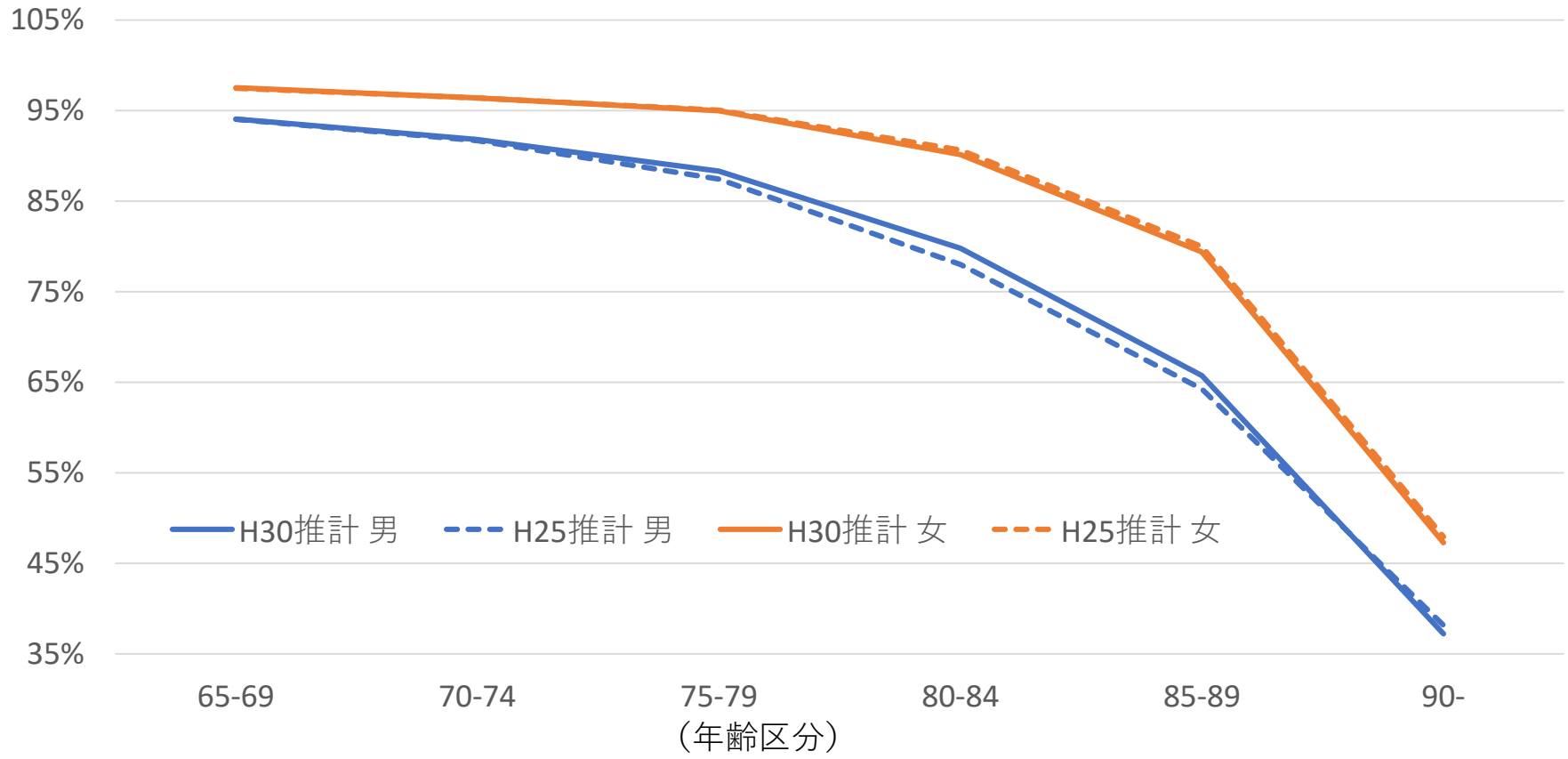
老年人口（高齢化率）



結果、高齢化率はH25推計に比べさらに上昇し、2030年にはほぼ50％となり、以後も上昇する見込みとなっている

② 新社人研推計の分析

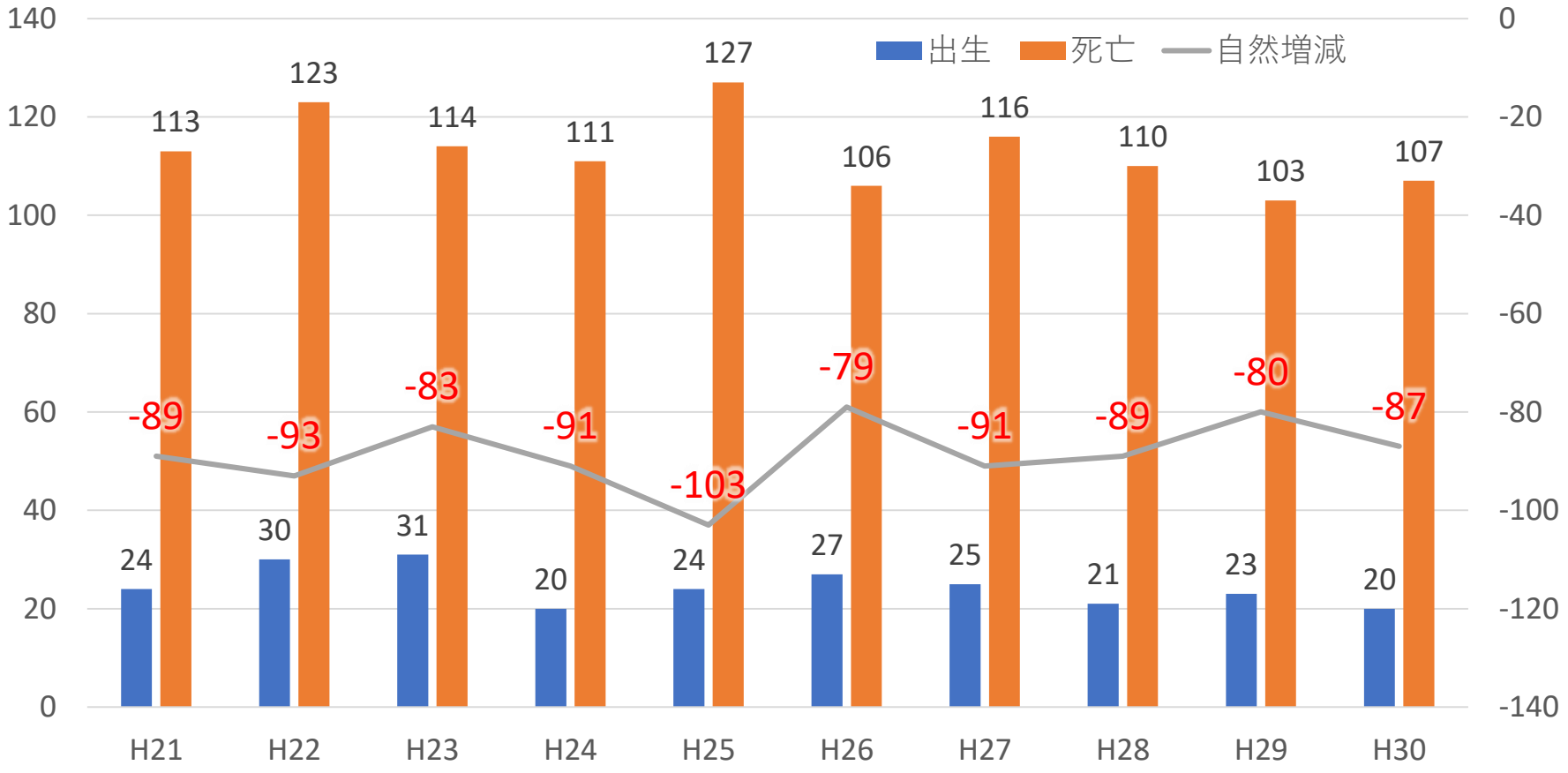
老年人口（生存率）



生存率は男性の80代で若干上昇。生産年齢人口の25歳以上男性の純移動率がプラス傾向にあり、これと相まって老年人口がH25推計より減少しない結果。

② 新社人研推計の分析

その他（自然増減）



出生数は震災前後で30人前後だったものが、近年は20人前後、死亡者数も震災前後は120人前後が近年は110人前後となっており、緩やかな減少傾向にある

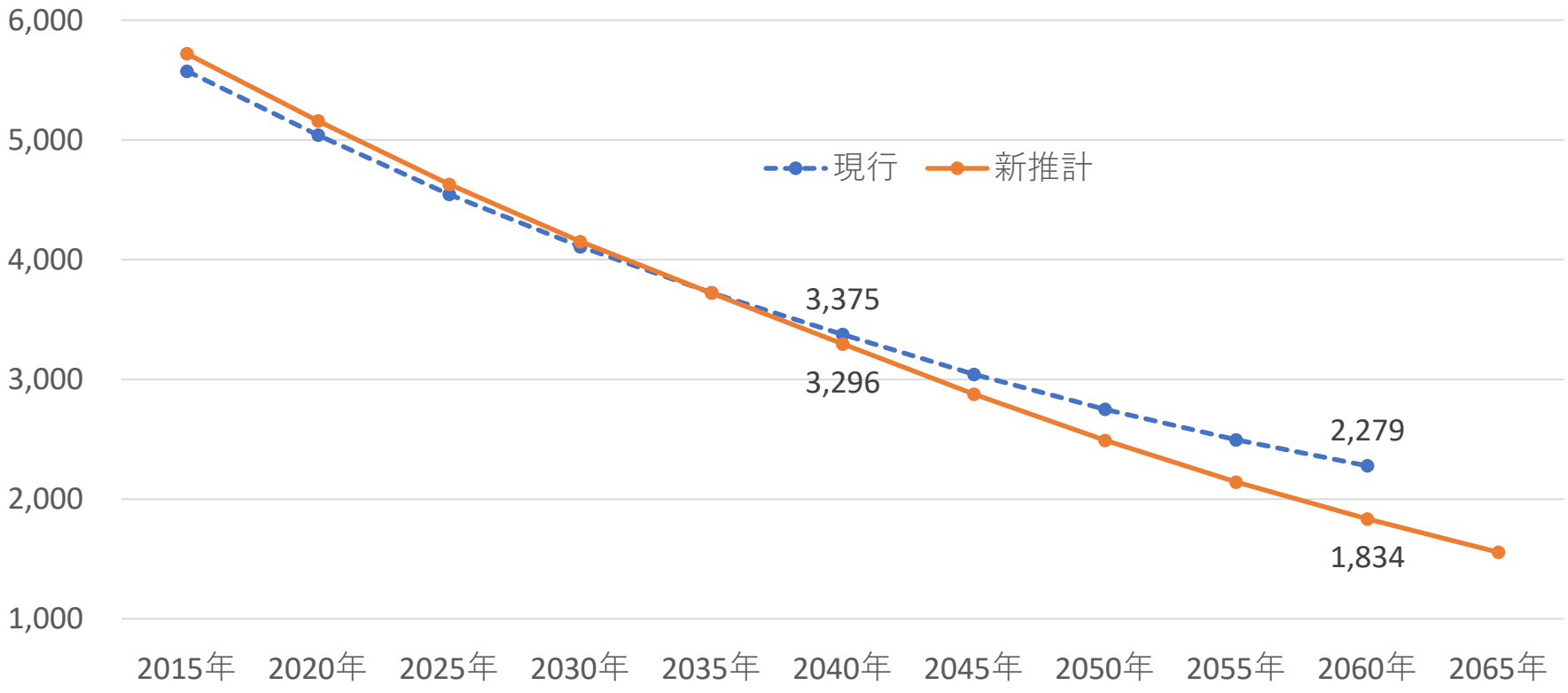
② 新社人研推計の分析
まとめ

	年少人口	生産年齢人口	老年人口
主な特徴	• 子ども女性比（出生率）の減 • 15～49歳女性の減	• 20～24歳男女の純移動率の減 • 年少人口の減	• 30代以降の純移動率の増 • 80代男性の生存率の増
2040年人口	96人(36.8%)　減↓	192人(13.1%)　減↓	230人(15.5%)　増↑

少子高齢化にさらに拍車

③ 人口ビジョンの再シミュレーション

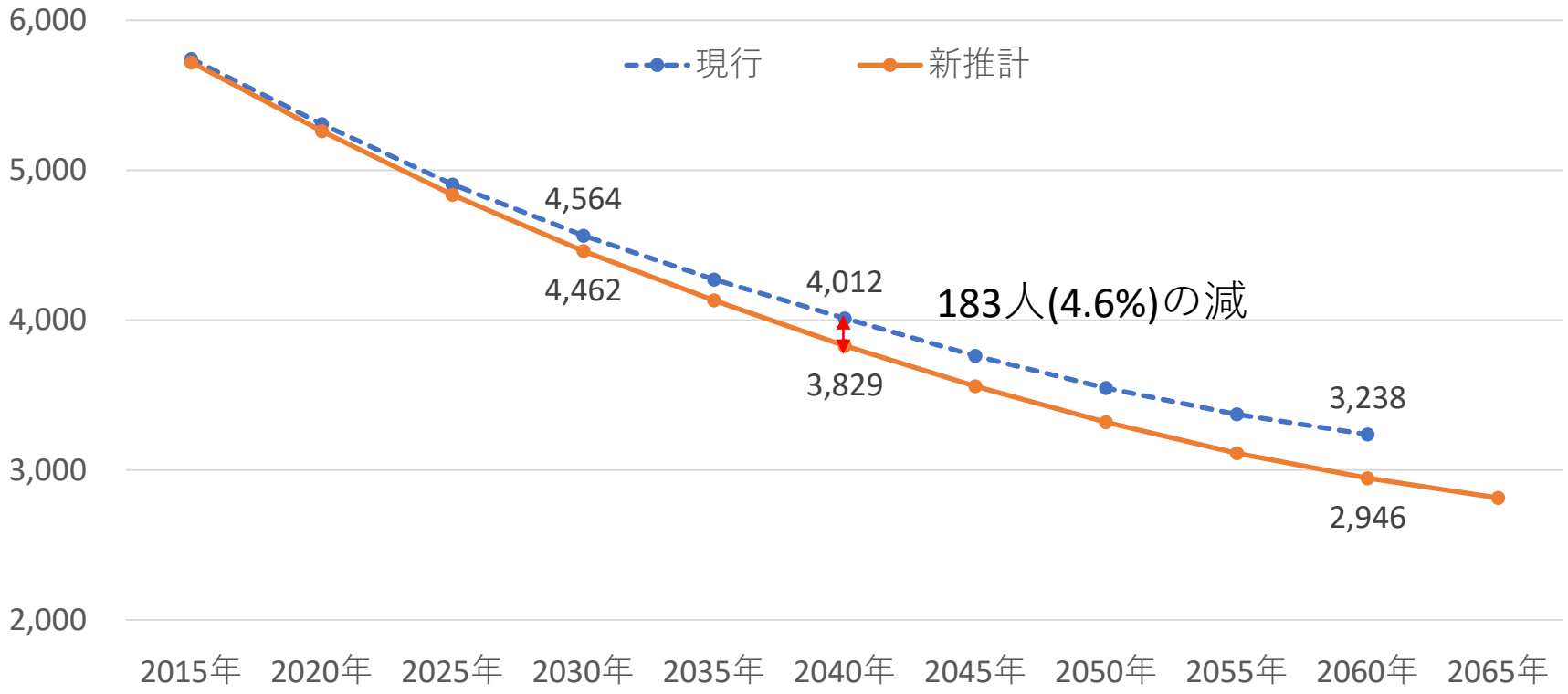
シミュレーション１＝社人研推計＋出生率上昇



出生率が上昇した場合の人口は、2040年時点で現行に比べ79人(2.3%)の減
（仮定出生率　2020年 1.5、2025年1.65、2030年1.8、2035年1.935、2040年以降2.07）

③ 人口ビジョンの再シミュレーション

シミュレーション２＝出生率上昇＋社会増減０

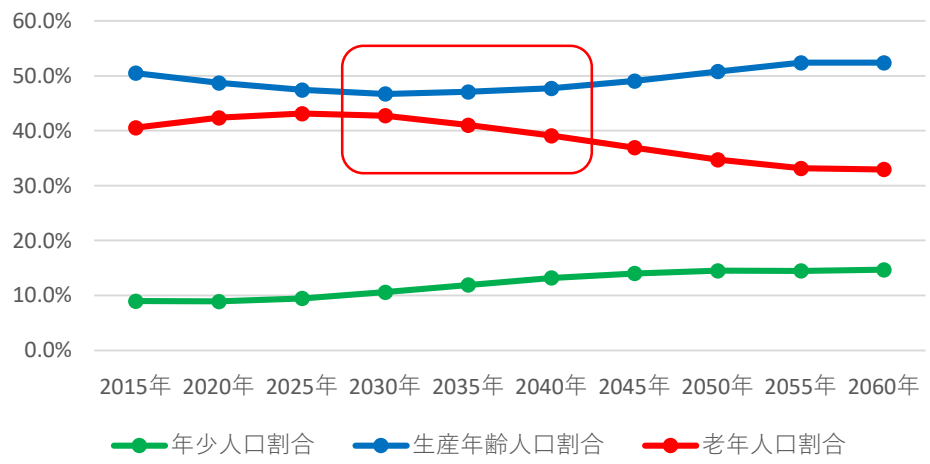


出生率の上昇に加え、期間中の社会増減をゼロとした場合は、減少傾向で徐々に乖離し、2040年では現行に比べ183人(4.6%)の減。シミュレーション１に比べ、乖離の幅が大きくなっている。

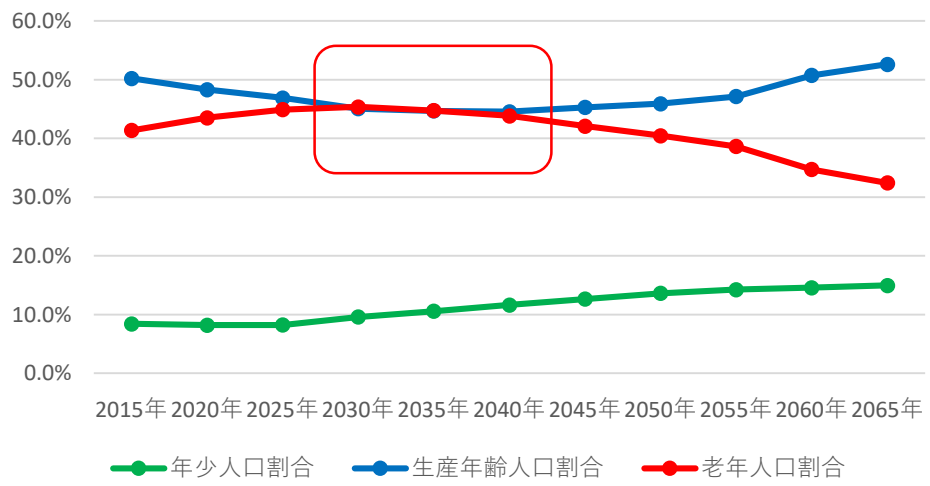
③ 人口ビジョンの再シミュレーション
シミュレーション２における乖離拡大の考察

- 期間中の年齢3区分の構成割合を見ると、2030年～2040年において、生産年齢人口の割合が下がり、老年人口の割合が上昇している。
- 要因はH25社人研推計とH27国勢調査を比べた場合の次の相違
  - ① 0～4歳、20～24歳の減少
  - ② 30代以降の増加

【現行】



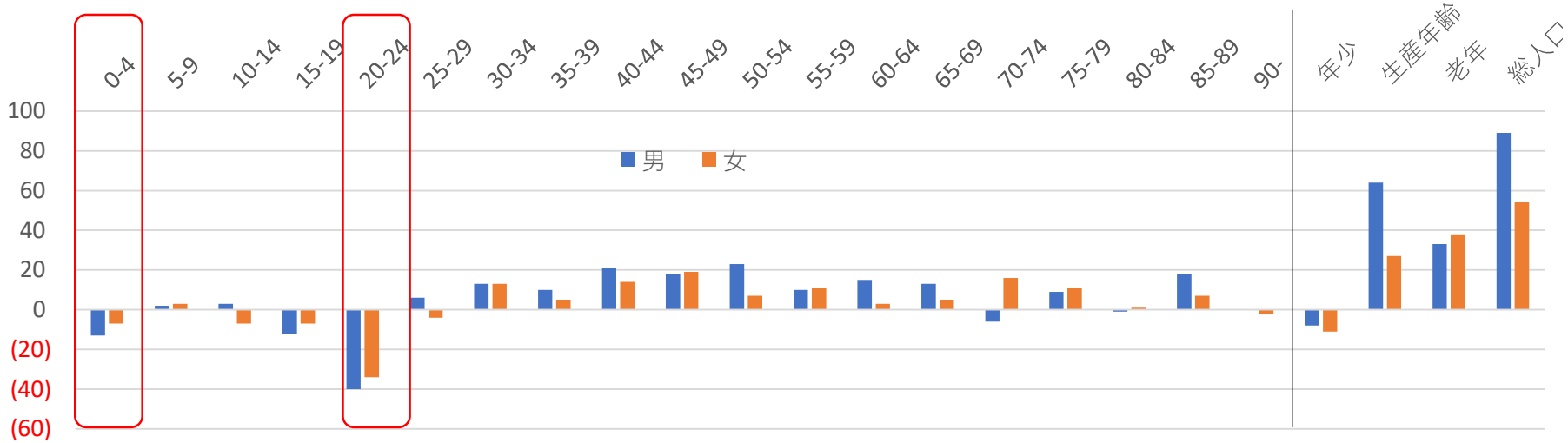
【新推計】



③ 人口ビジョンの再シミュレーション
シミュレーション２における乖離拡大の考察

- シミュレーション２では、
  - 出生率が上昇し
  - 社会増減がゼロである（純移動率の影響を受けない）

ことから、元となる「母数の減少」が乖離幅拡大の原因となっている



④ 人口ビジョンの目標人口修正

- 新たな社人研推計を、出生率を上昇させ、社会増減をゼロにしたとしても、現在の人口ビジョンで掲げる「2040年に4,000人」という目標には届かない見込み
- 前計画で掲げた目標人口は、人口減少はやむを得ないが、今後も安心して暮らせるための必要な手立てを打ち、最小限の減少に食い止めようとする、町民に向けての一種のメッセージであり、人口減少社会に立ち向かっていく町のスローガンとしての性格をもつもの

④ 人口ビジョンの目標人口修正

- ただし、人口はそれまでの町づくりによってどれだけの人にこの町が選ばれているかという、町づくりの成果のバロメーターでもある
- よって、町民に向けてのメッセージ、町のスローガンと、本計画の成果指標としての目標人口として、これまで掲げてきた「2040年に4,000人」の目標を継承したい

④ 人口ビジョンの目標人口修正

- 「2040年に4000人」の目標人口を達成するためのポイント
- 出生率の上昇と社会増減ゼロに加え、20年間でさらに約180人、1年当たり9人の人口増が必要

  - 20～24歳人口を増加させる
    - ➢高卒者、大卒者の就職先を作る

  - 15～49歳の女性人口を増加させる
    - ➢女性に選ばれる町づくり